

## 第15回カトリック召命チーム会合議事録

日時：2011年6月11日（土）16:00-18:00

場所：イエズス会管区長館（岐部ホール）310号室

### 1. この会の目的を確認

### 2. この会の具体的活動

#### \*大山による説明

- ・この会を具体的に展開する時が来た。
  - ・これまで「召命」という言葉について何度か話してきた。その内容は最終的には第14回議事録に書かれている。参照して欲しい。
  - ・今後は具体的にこの会を展開して行きたい。具体的に動かないなら、同じところで、同じような内容を議論しながらぐるぐる回るだけである。
  - ・召命の問題は話し合う所から、具体的に外に向かって展開しないと意味がない。それは神の恵みと働きは、具体化しないと、明らかにならないのと同じである。
- ・この会独自のことを行うべき。
  - ・各教区や修道会が行っているような召命活動をしたのでは、他のグループの妨げになる。
  - ・この会独自の活動は
    - ①日本全国の召命グループの活動を結び合わせ、その行事、活動の情報を集め、お互いに紹介できるようにすること。そのためにHPの改編は重要である。
    - ②「召命活動を行っている人たちの集い」を行うことである。
- ・この会の活動
  - ・以上なわけで、今後、この会は以下二つのことを大切にしながら展開したい。
    - ①HPの充実
      - ・メンバー：大木氏、笠井氏、井手口氏の協力をお願いしたい。大木氏と連絡をとりながら、近いうちに会合を持ちたい。
      - ・内容：内容の充実をはかる・各教区、修道会の紹介と召命活動情報
    - ②「召命担当司祭、修道者の集い」を実現したい。
      - ・方法：まず召命担当者、修道者に手紙を書き、アンケートに応じて貰う。そのアンケートうけて、集いに日程、場所、内容などを明確にする。

#### \*チームの皆さんからの意見

- ・「集い」の目的を司祭、修道者の召命に限るべき。そうしないとあまりに対象が広がりすぎるのではないかと
  - 召命は信徒を抜きにしては考えられず、信徒の中から召命が生じることを思えば、信徒の参加は必要だと思うが・・・
- ・男女修道会にとって召命の問題を考えるのは無意味なのではないかと
  - ・修道会は修道会独自に召命のことを考えてきた。そしてそれはしばしば良い成果を上げている。
  - ・また修道会はこれまでに、何度も合同で召命の問題を取り扱い、その問題も浮き彫りになっており、そしてそれぞれの修道会が召命の問題に個別に取り組んでいる。今更召命にまつわる問題を尋ねても、新たな問題は出てこないはずである。
- ・教区の司祭たちに召命の問題を考えて欲しい。
  - ・召命は小教区の現場から芽生える。ゆえに小教区の司祭にこそ、呼びかけていくべきではないか。
  - ・この「召命チーム」は自分たちの活動を司祭、修道者に知らせているのか？
    - この会の発足時にカトリック新聞にこの会の存在の記事を載せた。

この会のHPの開設とそのアドレスも知らせている。

教区の召命担当司祭、養成担当司祭にこの会の発足を知らせている。

男女修道会の管区長たちに、この会の発足を知らせ、協力を呼びかけた。

しかし、その後、具体的な協力の呼びかけなどはしていない。

また小教区の司祭たちに具体的に呼びかけることはしていない。

なお小教区の司祭たちへの呼びかけは、教区の召命担当を通してすべきものである。

・主任司祭の、召命のついでへの考え方が、しばしば召命の働きに影響する。

・従って、小教区の司祭たちにこそ呼びかけるべきではないか。

・司教たちに協力を呼びかけるべきではないか

・司教総会のときに呼びかけるべきではないか → 議題に載せるには間に合わない？

・各教区内には召命に熱心な司祭がいるはずだから、その人たちに知らせ、協力を願うべきではないか。

・教会管区での集いにしてはどうか。全国の集いだと大きすぎるように思う。

→管区の集いにするなら、このメンバーが大阪管区、長崎管区に出張する必要が出てくるのではないか。東京管区だと問題はないかもしれない。

とりあえず、今回は日本全国を対象に考えてみよう。

・この会の運営費用はどこから出ているか。

→いまのところ個人出しである。将来、必要に応じて寄付などを呼びかけることもある。経済的な難しさの中で、神に信頼し祈りながらすすんでいきましょう。

・現代の召命はどこから生まれるのか

・しばしば霊的運動から生じる・

・種々の霊的運動が下火になると召命をうまれない。逆に種々の霊的運動が活発になると召命が生まれる。召命の苗床としての霊的運動も集いのテーマになる。

・ボランティア：それを通して生活に変化が生じ、召命を得る場合がある。

・召命は福音宣教から切り離せない

・福音宣教と関係のない召命活動は不毛である。

・召命は人による継続的関わりが実らせるものである。

・今の神学生たちに、どのように召命を得たか、どのような人が、どのくらいのあいだ関わってくれたかなどを話して貰うとよいのではないか。

\*結論：

①召命に関する集いを行う・決定

②対象は小教区で働く教区の司祭たち、召命の会の人たち中心とする。

男女修道会には呼びかけない・アンケートを出さない。

③池長大司教様と野村司教様に「集い」を行うことに関して知らせ、全国の司教たちに口添えを頂く。

④各教区の司教と召命担当司祭（養成担当者）、教区の召命の会に手紙を出し、アンケートに応じて貰う。

⑤手紙は大山が下書きを行ない、次回の会合で検討する。

⑥アンケート内容は次回の会議の時に検討する。

⑦次回（7月9日）までに各教区の召命担当者（養成担当者）の名簿を作ってくる：大山

⑧次会の会合では今後の大まかなタイムスケジュールも考える

\*次会の会合では、さらにこのチーム内の組織を作っていけたらと思う

代表・ 会計・ 書記・ 総務・

広報・ホームページ・HP記事の担当：大木氏、笠井氏、井手口氏